

かずら日和 桜時雨

2017年春号

1

これは無料配布用です

【目次】

- イベント出店情報&新刊情報
- すべての独り言を過去にする
- 知名度 0%のポエム
- こぐまのマロンくんと桜時雨
- あとがき

【イベント出店情報】**【新刊情報】**

2017年イベント出店情報

8月..夏コミケ

12月..冬コミケ

発売予定日：2017年8月

タイトル..未定

価格..未定

申し込み後抽選です。当選し

ましたら出店確定します。ブー

ス場所は、HPでお知らせしま

す。

かずらと銀灰から新作発表を

予定しています。こちらにも決ま

り次第、HPでお知らせします。

【すべての独り言を過去にする】
ほんのちよつとの努力

【知名度0%のポエム・1】
空が青いとき、

今できることをやろう。できない
と決めてしまうのはもったいない。
やってみてから、考えよう。誰かが
できることは、自分もできることだ
と、想わないのかい。人間みな同じ
能力を持っている。誰かが自分より
ちよつとだけ違うのは、ほんのちよ
つとの「努力」だ。あきらめのはま
だ早い。まずはやってみてから。

昨日の僕は今日の君。昨日の君は
今日の僕。地球がいくつ年を重ねて
も、それは変わらない。青い鳥が庭
の木の下にやってくるとき。太陽は
僕らの背中を熱くさせる。木々はざ
わめき。ひまわりは愛を語る。僕ら
の小指に結ばれた赤い糸。それは果
てしない世界のはじまりだから。

こぐまのマロン君と桜時雨

2017© Kazura-An

桜の木につぼみがつくと、森に春がやってきます。最初にそれを見つけたのは、小鳥たち。森に冷たい風が吹く間、小鳥たちは南国で英気を養います。小鳥たちは、森の雪が解けるころに戻り、冬の間ずっと森にいてくれるのです。小鳥の声が森の中に響きはじめたころ。「そろそろ、外にでてもいいかな」こぐまのマロンくんは、縫い物をしているお母さんくまに聞きました。お母

さんは、窓の外を見ると、「もうすぐ春がやってくるわね。」よさそうよ、とマロンくんの顔を見てにこりといいました。わあい、と声を上げるとマロンくんは、すぐに着替えると、外に出る準備をしました。こぐまの一家は冬の間、ほぼずっと家の中ですごしています。その間、マロンくんは、お勉強の他、お母さんお父さんの手伝いをしながらすごしてきました。準備万端で外に出ようとすると、「あら、マロン。出る前にこれだけ手伝って頂戴」とお母さん

くまに掃除を頼まれました。マロンくんはすぐにお母さんくまの手伝いをし、もうこれでいけるだろう、とドアを開けました。ドアを開けると同時に、目の前にはお兄さんくまがいました。「お兄さん」とマロンくんとお兄さんくまは同時に驚きました。お母さんはお兄さんくまの帰宅を喜びました。マロンくんもお兄さんの帰宅には大喜び。お兄さんと乃会話をしばし楽しむと、はっと気付きました。そうだ、外にいかなくちゃ。マロンくんは、お兄さんと

お母さんくまが話している隙をみて、ようやく家を出ることにしました。なぜマロンくんがそんなに外に出たかったのか、というと……。マロン君は、そつと青いかばんを背中に背負うと、家からまっすぐ森の中に入りました。ある場所を目指すためです。「もう少しだからね」マロンくんは背中のかばんに声をかけました。森の木々たちはまだ眠りから覚めていない木、目覚めたばかりの木で、まだ完全に森の活気が感じられません。そんな森の中、太陽

の日差しが少しあたたかく感じます。しばらく歩いていくうちに、目の前に空き地が現れました。そこには一本の木がありました。まだ雪をかぶっているせいか、見た目は元気がありません。マロン君はその木の幹に近づくと、かばんを下ろしました。チャックをあけて、かばんの中からそっとタオルに包まれたものを取り出し、幹のそばに置きました。「やっところにくることができましたよ。」布に声をかけると、布がもぞもぞ、と動きました。布がはらりとめくれると、中から小さな羽根の生えた妖精さんが出てきました。「まだ木が目覚めていないけれど」残念そうにいうと、妖精さんは幹に顔をよせると「眠っているみたいだわ」というと、マロンくんはにこりとお辞儀しました。「ここまでつれてきてくれてありがとう。」マロンくんはにこりとすると「♪日たつたらここに来て。私を助けてくれたお礼をするから」というと、ずっと宙に浮かび妖精さんは木の中に吸い込まれていきました。

「日後。すっかり雪がとけ、木のざわめ
きが朝のモーニングコールになるころ
マロンくんは、学校の帰りにあの場所
に行きました。小さな妖精さんとお別
れしたところです。その場所に近づく
につれて、うっすら甘い香りが風にの
って香ってきます。場所に到着すると、
目の前には、大きな木が桜色に染まっ
ていました。木の下に行き見上げてみ
ると、桜の花びらが風がないのにひら
ひらと落ちてきました。「マロン君、あ
りがとう」桜の花びらがさらさらと歌

この作品は書き下ろしです。

あとがき・・・みたいなもの

今号より趣向を変え、テーマを決めて発行しました。普段ブログやメルマガ、サイトで書いていない、ちよつとした裏話的なことを書こうと思いつてはじめたのがフリペです。作品よりもこちらのフリートークを楽しみにしている人も中にはいたりして。私自身、他サークルさんの新聞やフリペが好きです。そんな人柄が表れるフリペを作って生きたいです。それでは次号にお会いしましょう。2017年春

かずら日和 桜時雨

平成二十九年四月三十日発行

編集・・・かずら

発行・・・蔓庵

<https://kazrafugetsu416.jimdo.com/>

kazrafugetsu416@gmail.com

